幻想の明治

第七話

雷奇談

高信太郎

明治10年 8月15日付け 報知新聞より

わっ
たったった
これは
たまらぬ

それ
あの木の元へ
逃げこめ
オイ
キタ

いやー
えらい降りに
なりよった
どうした
ことじゃ
さっきまで
あんなによい
天気じゃったに…

元三
おぬしが
いかんのじゃ
ぞ
あれ
なんで
じゃ

せしが山の天気は
変りやすいで
早よ帰ろう
ゆうたに
グズグズしよるから
なにをいう
こんなおジネンジョを
取り残すは惜しいと
ゆうたのは
おぬしでねえか

なーも
貴舟の山まで
とは
ブツ
ブツ

えーい
もうよい
今になって
いいあっても
せんない
ことじゃ

夏の雨じゃ
すぐ晴れる
じゃろう
それも
そうじゃな
ちょっとの
シンボーじゃ
わしも
悪かった

ゴロゴロ
ゴロ
ゴロ

ゴロゴロ
ゴロゴロ

おい元三よ
だんだんひどく
なるで
ねーだか
ほんと
じゃ
おかしい
のう‥

ゴロゴロゴロゴロ
おまけに
カミナリまで
鳴り出したわ
やれん
のう

ガラガラ
ガラガラ
うやっ
たったったったっ

のう元三郎よ
なんじゃ喜右エ門うるさいのー
もう

昔からカミナリは鬼のカッコをしてるちゅーがありゃ本当かの
バーカウソに決まってるがや

またヘソを取って食らうという話も聞くが

今カミナリに襲われたら困るのーわしら…
ハハハ
なにをたわことを迷信じゃ迷信じゃ

だいじょうぶかのー
まさか
そうやすやす落ちるもんかよ

それが…
落ちたと…
ウム
すぐ落ちた

ガラガラガラガラ
ドッシーン

どれだけ時が
たったか
やじが気がついてみると…

喜右衛門の
姿が見えんのじゃ

喜右衛門
どうした
どこに
いるーっ

あ
あ
あー

あはー
あ〜
あは〜

そこで
やじが見た
ものは…
なな
ななな

なんじゃ
こりゃ
喜右衛門と
若い女の
あられもない
姿じゃった…

あ
あ
あ
あ

あ〜っ
あっ
あっ
昇るっ
あっ

喜右衛
ピカッ
あ〜〜っ
あっ

しっかりしろ!
いったいどうしたんじゃ
おお
見たじゃろ 元三郎 カミナリはやはり鬼じゃったぞ

わしゃ そいつを…
天に帰してやったのじゃ
ガク

それで そのことを 御老人は 人には
話さんかった 話しても 信じてもらえ まいしの…
狂うたて 思われるが オチじゃでな

またカミナリも 変なところに 落ちたもんじゃのー
おおかた ヘンと まちがえ たんじゃろ
ハハハ

やつだけが
知っておる
喜右衛門は
カミナリの娘に
とり殺されたんじゃ

お若いの
悪いことはいわん
あの山に
登るには
このお守りを
持っていきなされ
これさえあれば
死なずにすむ
はァ…

こうして
山に登った
私は……

お守り
ねェ…
なんだろ?

私は
老人に
かつがれたのでしょうか…
……